

JICA 研修員が東北地方被災港湾等の見学の一環として災害科学国際研究所を訪問されました(2016/8/19)

テーマ：防災教育, 災害管理, 国際連携
場所：災害科学国際研究所

海図作成のための測量技術等の習得を目的として来日している国際協力機構（JICA）研修員が、8月18日、石巻港及び女川港を見学し、東日本大震災後の被災港湾の復興状況について学んだ後、翌19日に、最先端の自然災害科学研究について学ぶため、当研究所を訪問されました。海上保安庁ではJICAと協力し、開発途上国で海図作成のための測量に従事する技術者を対象とした集団研修を昭和46年から毎年実施しており、これまで42カ国から414名の修了生を輩出してきました。今年度は、6月末から12月までの約6カ月間の日程で、4カ国（カンボジア・インドネシア・ミャンマー・フィリピン）7名と安田幸雄氏（JICA）と山本明夫氏（海上保安庁）が本研修に参加し、海図作成のための測量や防災に関する講義・実習に参加しています。当研究所訪問の際、災害リスク研究部門のサッパシー・アナワット准教授、ラチャロット・パーノン研究員、リーラワット・ナット研究員による講演が行われました。また講演後には、減災スタンプラリー、減災ポケット「結」、減災アクションカードゲームの順で体験型プログラムが実施されました。それぞれの講演のタイトルは以下の通りです。

サッパシー准教授：Introduction to IRIDeS & Lessons from the 2011 Tohoku Tsunami and Tsunami Mitigation in Japan

ラチャロット博士：Natural Disaster in Japan and the Role of IRIDeS

リーラワット博士：Warning Systems and Mobile Application Research

今後、この研修で得た石巻港、女川港の被災及び復興状況や、当研究所における最先端の自然災害科学研究に関する知見が、津波等の自然災害が多発する母国での防災対策に役立てられることが期待されます。



JICA 研修監理員、海上保安庁技術・国際官、JICA 研修員、当研究所のメンバー

文責：サッパシー・アナワット、ラチャロット・パーノン、リーラワット・ナット（災害リスク研究部門）
(次頁へつづく)



サッパシー准教授による講演の様子



ラチャロット研究員による講演の様子



リーラワット研究員による講演の様子



減災アクションカードゲームの様子